

●症状の解説

■運動チック

突然に起こる素早い運動の繰り返しのことで、まばたきを繰り返す、顔をクシャッとしかめる、首を振る、肩をすくめる…などが比較的良好にみられ、時には全身をビクンとさせたり飛び跳ねたりすることもあります

■音声チック

運動チックと同様の特徴をもつ発声です。コンコン咳をする、咳払い、鼻鳴らしなどが比較的良好にみられ、時には奇声を発する、さらには不適切なことばを口走る（汚言症：コプロラリア）こともあります。

どちらも意志とは無関係に発してしまいます

■2種類ある病態

ひとつは、5~6歳に発症し、増悪・寛解を示し、一年を越え持続する単純チックは10歳代中頃に軽快の方向を取ります。大脳基底核のドーパミン神経系の発達障害が示唆されます。

もうひとつは、10歳頃より出現する。こちらも薬物に対する反応からドーパミン神経受容体の異常が考えられるが、強迫神経症を伴い、長期持続、難治化します

■合併症

しばしばみられる合併症は、小児期の注意欠陥多動性障害と10歳以後の強迫性障害があり、その他、小児期には睡眠障害、昼夜の区別に一致した生活リズムがとれない、直立二足歩行がきちんとできないことがみられ、10歳代には衝動性行動などをみることもあります

●鍼灸治療における選穴基本穴として百会、四神聡穴、太陽、頭維、風池、神門、内関、足

三里、三陰交、太衝、復溜、太溪等から選穴します。個人の体質、症状に対応する穴を加味します